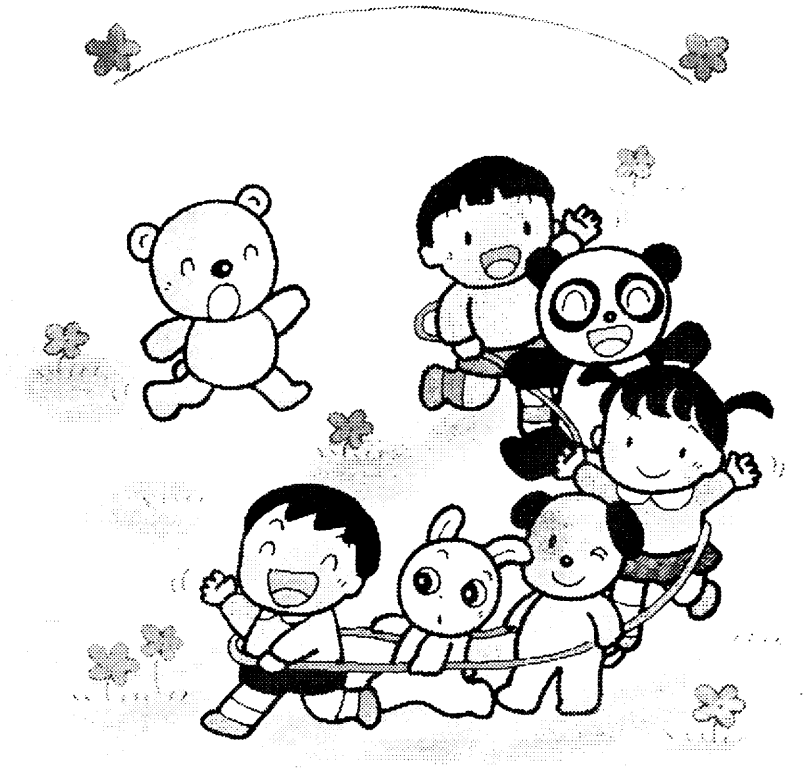
（幼稚園）

幼稚園における道徳性の芽生えを培うための援助の工夫

－園生活の遊びをを通して－



浦添市立教育研究所　教育研究員

浦添市立宮城幼稚園　下　地　章　子

目　次

Ⅰ　テーマ設定の理由 …… 1

Ⅱ　目指す幼児像 …… 2

Ⅲ　研究の目標 …… 2

Ⅳ　研究の仮説 …… 2

Ⅴ　研究構想図 …… 2

Ⅵ　研究内容
　1　幼児期の道徳性について …… 3
　2　道徳性の芽生えを培うとは …… 3
　3　道徳に関する指導要領の関連表 …… 4
　4　年間指導計画案 …… 6
　5　教師の援助 …… 7
　6　家庭との連携 …… 9

Ⅶ　保育の実践
　1　活動名 …… 9
　2　目　標 …… 9
　3　保育設定の理由 …… 9
　4　郵便やさんごっこの取り組み …… １０
　5　本時の保育展開 …… １２

Ⅷ　研究の事例
　　事　例 …… １５

Ⅸ　研究の成果と課題 …… １９

おわりに

引用・参考文献

幼稚園における道徳性の芽生えを培うための援助の工夫
―園生活の遊びを通して―

浦添市立宮城幼稚園　下　地　章　子

【要約】

本研究は幼稚園における道徳性の芽生えを培い，心豊かな子を目指し，園生活を通して 友達と関わる中で，自分と他者の違いに気付き，調和を図る態度や相手の思いを考えて行動出来る子を育むための援助の工夫を図るものである。園児は友達との関わりや遊びの中で他者への気付きや良さを見つけ，楽しく遊びを進めるためにはルールが必要な事を経験する事で，感情の基盤となる道徳性の芽生えが培われる意欲が高まったように思われる。

キーワード　□道徳性の芽生え　□他者への気付き　□友達の良さ　□きまりやルールの大切さ

Ⅰ　テーマ設定の理由

いじめ，不登校，学級崩壊，少年犯罪など，子ども達の問題行動が報じられる中で，幼児期の教育は人間として健全な発達や，社会の変化に主体的に対応する能力を育成していくための基盤を培うものとして，大変重要である。また，幼児期からの道徳性を育てることの大切さも叫ばれている。しかし，子どもを取り巻く社会環境を見てみると核家族化，少子化，価値観の多様化などの社会状況の変化に伴い，地域に於ける人間関係が希薄になってきている。

本園は商店街を中心に住宅地域が形成されており，アパートやマンションに住んでいる世帯が70％以上を占め，幼稚園に入園してくる子どもの約80％は，保育園など集団生活を経験しているが，保護者の勤務先などの関係から，同じ保育園等から来る子が少ない。入園当初の幼児の遊びを見てみると，ブロックやレゴ，パズル，折り紙など室内での一人遊びが多い，また、誰かに誘われるまで友達の遊びを見ている子や，自己中心的に遊びを進めたり，遊具を独り占めしたりする子など、クラスの友達と積極的に関わり、一緒に遊ぶ姿はみられない。子ども達は，園生活での遊びを通して，触れ合いがはじまり，他者への興味や関心，共感，思いやりなどを持つようになり，友達関係が広まっていく。

幼児期の生活において、友達と関わって十分遊ぶことを通して、つまずきや葛藤を体験し、自己の存在感や充実感を味わったり、相手の存在に気付いたり，相手に対する思いやりや信頼する気持ちが芽生えてくる。従って、幼児期はこのような、自我の形成にかかわる体験を計画的に取り入れていくことが重要になる。

そこで，自我が芽生え，他者の存在を意識し，自己を抑制しようとする気持ちが生まれる幼児期の特性を踏まえ，入園から修了までの発達に即した教育の見通しを持った園生活に於いて，心豊かな子の育成を目指し，幼児が幼稚園の生活の中で人との関わりを深めながら道徳性の発達を促す様々な経験を積み重ねていけるための指導計画を作成し，道徳性が芽生える場面に随時出会っていることを意識し視点を考え，援助の工夫を図ることにより，幼児の心の成長に必要な道徳性が培われていくであろうと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　目指す幼児像

○　心豊かな子

・良いことや悪いことがあることに気付き，考えて行動できる子

・互いに認め合って遊べる子

Ⅲ　研究目標

心豊かな子の育成をするために、幼児の身近な人と関わる遊びの場面で，他者の思いに気付き，友達の良さを互いに認め合う援助の工夫を実践的に研究する。

Ⅳ　研究の仮説

園生活における身近な人と関わる遊びの場面において，他者の気持ちに気付き，友達の良さを互いに認め合う援助の工夫を行うことにより，心豊かな子が育まれるであろう。

Ⅴ　研究構想図

≪目指す幼児像≫
心豊かな子　・良いことや悪い事があることに気付き，考えて行動する子
・互いに認め合って遊べる子

↑

≪研究テーマ≫
幼稚園における道徳性の芽生えを培うための援助の工夫
－園生活の遊びを通して－

≪研究目標≫
心豊かな子の育成をするために、幼児の身近な人と関わる遊びの場面で，他者の思いに気付き，友達の良さを互いに認め合う援助の工夫を実践的に研究する。

≪研究仮説≫
園生活における身近な人と関わる遊びの場面において，他者の気持ちに気付き，友達の良さを互いに認め合う援助の工夫を行うことにより，心豊かな子が育まれるであろう。

≪研究の内容≫

1	幼児期の道徳性について	4	年間指導計画案
2	道徳性の芽生えとは	5	教師の援助について
3	道徳に関する指導要領の比較表	6	家庭との連携

保育実践

研究の成果と今後の課題

Ⅵ　研究の内容

1　幼児期の道徳性について

(1) 発達の面から

① 幼児期は基本的に他律的な道徳性をもつ時期で「大人から言われたから」「怒られるから」等と信頼する大人の言うことが正しいと考え，結果としてそれに従うという傾向が強い。

② 物を壊したり，友達が泣いたり怒ったりするのを見て「これは悪いことかな」相手が喜んだり大人から褒められたりすると「良いことなんだ」等と，自分なりに善悪の概念を作っていき，現象面を捉えながら，内面で捉えることができるようになる。

③ 他者との様々なやりとりをする中で，自分と他者の気持ちや欲求の異なることがわかり，自己中心的なものの見方から 次第に他者の視点に気付いていく時期である。

④ 友達と生活し遊ぶ中で喧嘩やトラブルが起こり葛藤体験をする事により，友達と楽しく過ごすためには，きまりを守る必要性に気付き自己コントロールすることができるようになる。

⑤ 乳幼児期から培われている他者への興味や関心，他者に合わせようとする基本的な信頼，共感性を豊かにし，自他両方の視点を考えて自分の欲求や行動などを調整できる過程を経て，道徳性の発達は達成される。

(2) 幼児期に育てたい道徳性

① 相手の思いに気付き，互いの気持ちをわかりあう。
② ものや人と関わる中でよいこと悪いことに気付き，考えることができる。
③ 友達や教師，身近な人に関わろうとする気持ちや，かかわる力が育つ。
④ 生活に必要なきまりやルールの大切さに気付き，よい行動をしようとする気持ちが育つ。

2　道徳性の芽生えを培うとは

(1) 幼児期は道徳性の発達の基盤作りとしての重要な時期である。この時期に「道徳性の芽生えを培う」とは，ある倫理観を幼児に教えれば良いと言うことではない。また，集団生活をしていれば身につくものでもない。幼児の心の中に芽生える人への興味や関心，相手に合わせようとする心に働きかけることを通して培われる。そこで，幼児の発達を見通した適切な教師の働きかけが重要になる。

(2) 道徳性の発達は乳幼児期から培われている他者への興味や関心，他者に合わせようとする基本的な信頼の上に他者への共感性を豊かにしながら，自他両方の視点を考えて自分の欲求や行動などを調整できるようになる過程を経て達成される。

3　道徳に関する指導要領の関連表

「心を育てる場」としての学校の見直しが提言されている中央教育審議会の答申の幼児教育では「家庭と連携して，幼児が日常生活に必要な習慣を体得すること，人として，してはいけないことがあるということに気付くようにすることや，何が良くて何が悪いかを考えるようにすることなど」幼児期の道徳性の芽を伸ばし，育てる適切な働きかけをしていくことが強調されている。

幼稚園の新幼稚園教育要領の5つの目標の（1）（2）には道徳性について述べられ、特に（2）の中で、道徳性という言葉が使われている。五領域の中では、健康・人間関係の領域で詳しく述べてある。一方、小学校の新学習指導要領－道徳－には、「道徳は人間が人間として共によりよく生きていく上で最も大切にしなければならないもの」と明言してある。その内容は従来通り4つに分類され、2学年ごとに内容が示されており、特に、低学年では、「学校の生活に適応していくとともに、人としてしてはいけないことや善悪について自覚でき、基本的な生活習慣や社会生活上のルールなどが身に付くよう、家庭との連携を密にしながら人間としての在り方の自覚に結びつく基本的な道徳的価値を繰り返し指導することが大切である。」として、15の内容項目が示されている。

関連表は、幼稚園新教育要領及び小学校新学習指導要領の抜粋である。ただし，点線を引いている　箇所は、双方に関連した内容の部分である。

関連表　　（ 幼稚園新教育要領より ）　　（小学校新学習指導要領－道徳より）

幼稚園教育の目標	第 1　目 標
（1）健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を培うようにすること。 （2）人への愛情や信頼感を育て、自立と協同の態度及び道徳性の芽生えを培うようにすること。	道徳教育の目標は、第1章総則の第一の2に示すところにより、学校の教育活動全体通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。
領 域 （健 康） 1　ねらい （1）明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 （2）自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 （3）健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。	道徳の時間においては、以上の道徳目標に基づき、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間おける道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的，発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し，道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。
2　内　容 （1）先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。　4－（3） （2）いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 （3）進んで戸外で遊ぶ。 （4）様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。	第 2　内 容 〔第1学年及び第2学年〕 1　主として自分自身に関すること。 （1）健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで規則正しい生活をする。

(5) 健康な生活のリズムを身に付ける。1－(1)
(6) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事，排泄など生活に必要な活動を自分でする。
(7) 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整える。
(8) 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。
(9) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する。

領域（人間関係）

1 ねらい
(1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
(2) 進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもつ。
(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

2 内 容
(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
(2) 自分で考え，自分で行動する。
(3) 自分でできることは自分でする。1－(2)
(4) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。
(5) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
(6) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
(7) 友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。2－(3)
(8) 良いことや悪いことがあることに気付き，考えながら行動する。1－(3)
(9) 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。
(10) 友達と楽しく生活する中できまり大切さに気付き、守ろうとする。4－(1)
(11) 共同の遊具や用具を大切にしみんなで使う
(12) 高齢者をはじめ地域の人々などを自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。
2－(2)

(2) 自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかりと行う。
(3) してよいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。
(4) うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。

2 主として他の人とのかかわりに関すること。

(1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。
(2) 身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。
(3) 友達と仲よくし、助け合う 。
(4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。

(1) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。
(2) 生きることを喜び、生命を大切にする心をもつ。
(3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。

(1) みんなが使う物を大切にし、約束やきまりを守る。
(2) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。
(3) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。
(4) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。

4　道徳性の芽生えを培う年間指導計画案　（幼小の視点から）

段階	幼稚園生 → 小学校1年生					
	1期（4，5月）	2期（6，7月）	3期（9，10月）	4期（11，12月）	5期（1～3月）	
発達の姿	*新しい環境に不安を持ち，教師とのかかわりをもとに安定しようとする。 *他の幼児とのつながりはあまり見られず自分の好きな遊びで安定しようとする。	*他の幼児への関心が生まれ，一緒に居たい友達が出てくるとともに，トラブルが起こりやすくなる。	*いつも一緒に遊ぶ友達ができるが，自己主張を持つようになる。 *友達の遊びから刺激を受けて遊びが広がる。	*友達と遊びの進め方などを相談しながら，遊びを展開しようとする。 *相手のことを考えて行動するようになる。	*一つの目標に向かってクラスの友達と協力して活動を展開しようとする。 *相手を思いやる言葉や行動が見られる。	*自分でしなければならないことができるようになる。 *相手の立場を認めたり理解したりする能力が発達する。 *して良いこと悪いことが理解できるようになる。
指導内容 A 基本的な生活習慣（持ち物の整理・片づけ）	*自分のマークを覚える。 *自分の持ち物を置く場所を知り置く。 *自分が使った物を先生と一緒にに片づける。		*自分の名前に興味を持ち，自他の持ち物に区別をつけようとする。 *自分の持ち物を，置く場所がわかり，自分から進んで始末する。 *自分が使った物を、もとの場所へ片づける。	*自分の名前がわかり，記名の必要性に気づく。 *自分の持ち物などを進んで決まった場所に置く。 *必要に応じて道具箱や道具棚の整理をする。 *自分やみんなが使った物をもとの場所へ片づける。		*記名する習慣が身に付き，持ち物を大切にするようになる。 *人の迷惑にならないように，自分の持ち物を所定の場所に整理する。 *自分やみんなが使った物は，協力して片づけることができる。
B 自己表現と自他の尊重（人への共感・思いやり）	*自分の思いを出す。（言葉，態度，表情） *人から優しくされた事を，うれしいと感じる。		*相手にも思いがあることを，知る。 *人に優しくすることの，喜びを感じる。	*自分の思いを出しながら，相手の思いに気づき受け入れようとする。 *相手の良さに気づき，認め合う。		*互いに思いを出し合い，譲歩しながら，自分たちで解決しようとする。 *相手の良さに気づき，認め合ったり，相手の良さを自分に取り入れようとしたりする。
C 善悪の判断	*して良いこと，悪いことがあることに気づく。		*して良いこと，悪いことがわかる。	*良いこと，悪いことに自ら気づき，考えながら行動する。		*良いことと，悪いこととの区別をし，良いと思うことを進んで行う。
D 規則の尊重	*園生活にはきまりがあることを知る。		*きまりの大切さに気づき，守ろうとする。	*友達と楽しく生活する中で，きまりの大切さに気づき守る。		*社会生活や集団生活の中でのきまりの必要性を感じ，守ることができる。

5　教師の援助

(1) 幼児がありのままの自分を出せるような雰囲気を作り，幼児と教師の信頼関係を築き，共感，受容する。
(2) 一人ひとりの幼児の発達を考慮した援助と内面の読みとりを心がける。
(3) 他者との交流・協力を大切にし，幼児同士のかかわりの中できまりやルールの必要性に気付き，それらを守ろうとする気持ちを育む。
(4) 幼児同士のやりとりを見守る。
(5) 幼児の心を揺さぶり，感じる心を豊かに充実させていく。
(6) 挫折感や葛藤体験などを味わい，相手の気持ちに気付き，してはいけないことや，しなければならないことがあるということを，自分で判断していける力を育む。
(7) 幼児が自分で気付かないことがあるということを，時に教師が明確に示していくなどして気付かせていく。
(8) 自分と他者との違いに気付かせたり，違いの中に良さを相互に認め合ったり，楽しさを感じる心を育くむ。
(9) 教師自身が身をもって，態度や行動に表し良いモデルになる。

※認める・叱るについて　　（東京成徳短大，今井和子氏より）

子どもをほめたり，叱ったりすることは，子どもが自己発揮しながらも，何が良いことであり，悪いことかを知り，周りの人たちとうまく折り合いをつけ自律していくようになるためだが，大人から子どもへと，一方的に縦の関係でなされるため，いろいろな弊害も生じる。

今，保育者が一番よく使うほめ言 ⟹「上手」「カッコイイ」「やったあ」「すっご～い」「かわいい」

パターン化した言葉

教師がいつでも、誰にでも画一化したほめ言葉で対応することは、子供の独自性やその子なりの育ちをつかんでいない。

× 周りの子との比較でほめる
○ 以前と比べて育ったところほめる
○ その子の良さ、工夫をほめる

例　M男「先生，新幹線かいたんだけど」と自信なさそうに見せに来る。
T「でも，カッコイイじゃない，上手」とほめる教師。新幹線が走っているようにかけなっかた事を悔しがっていたM男だったが、教師からほめられてしまい、とまどった表情をしている。

その子自身の育ちや良さをしっかり見る
⇩
（心に）とどめる。　認める。
⇩
子供と教師の信頼関係が築かれる

大げさなほめ方、見え透いた画一的なほめ方
⇩
子どもが傷つく

ほめすぎず　認める姿勢

怒ること・叱ること　（今井 和子氏）

子どもを叱るといいながら，教師が自分の感情をコントロールできず，感情の吐け口として子どもに怒りをぶつけてしまうことは?

怒ること

×

保育園において
給食の食器を一定時間に片づけられていない子に，「早く食べて片づけてくれないと，先生が給食の先生に怒られちゃうんだから」と怒っても，子どもは何を怒られているのかわからない。（大人の顔色を見る子になってしまう）

叱るということは，善悪を知らせ
それが何故悪いかをわからせること

叱り方のポイント

自己表現の行為 → 気持ちを認める → 相手に気付かせる → 心の動きを考える

（積み木で遊びたい 友達の物を取ってしまった 。）（○ちゃんも積み木がしたかったのね。）（でも○ちゃんが使っていたのよ。）（「私にも貸してね」といってね。）

(1) へりくつを言わせるような叱り方はしない

（幼児と保育1997，10）

× 「何でこんな事をするの?」「だって～」

○ 「～するつもりだったのね。」自己確認の対応

(2) 短い言葉で厳しく

例「静かにしなさい，電車の中だから」

(3) 自分の気持ちや感じ方を素直に表す

例「○ちゃんに噛まれて痛かった。」
「だからやめてね。」

※子どもを私物化せず，一人の人間として尊重する。
子どもと真剣に向き合う大人の姿勢が大切
叱ることをしなくなった保育者は親しい子どもとの間に通いあう，大切な共感のひとこまを放棄しているとはいえないか。

ほめる・認める・しかる 保育チェックリスト

●自分の保育を振り返ってみるポイント

〈ほめる・認める〉

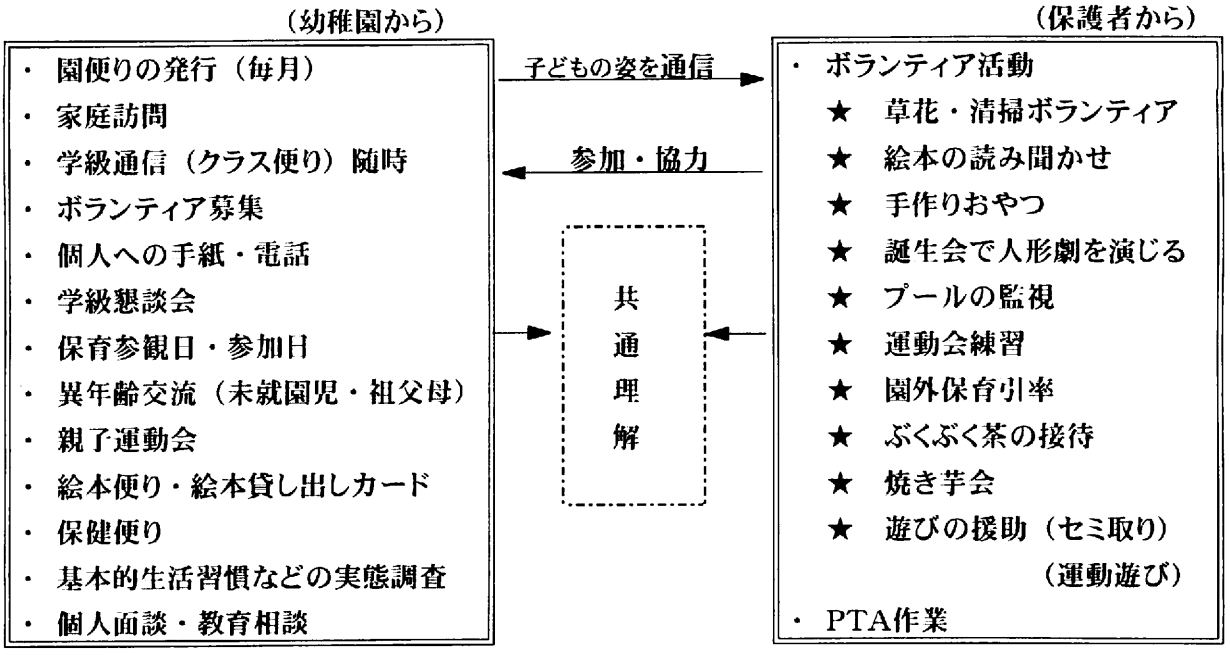
	●子どもがうれしいほめ方をしていますか？	チェック欄
1	結果だけを見ないで，子どもの努力の過程を見てほめている。 例／「船の形，工夫したのね。さっきよりかっこよくなったよ。きっと，速く走れるね」など。	
2	元気な子，人見知りする子など，その子の性格に合わせたほめ方をしている。 例／みんなの前でほめられたい子，耳元でそっとほめられたい子の気持ちにそっている。	
3	まることほめずに，どこがよいのか具体的にほめている。 例／「ほうきの使い方，上手になったね」「なわとびで，×とびも続けてとべるようになってすごいね」など。	
4	ほめるときに，まわりの子の気持ちを考えている。 例／かけっこで一番になったからと，「すごいね，えらいね！」などとその子だけをほめすぎない。	

	●やたらにほめすぎてあまりよくない影響が出ていませんか？（該当する子がいなければ○，いれば×）	チェック欄
1	ほめられるまで次の動作に移ろうとしない子がいる。	
2	ほめられることが，活動の目的になっている子がいる。	
3	いい子でいるために，大人の顔色をうかがうような子がいる。	
4	つい，子どものプライドを傷つけるほめ方をしてしまう。 例／いつもできている子に，「あら，上手に手が洗えてえらいね」「一人でくつがはけたね」などオーバーにほめる。	

〈しかる〉

	●こんなしかり方はタブーです（該当しない時は○，する時は×）	チェック欄
1	「Aちゃんはちゃんとできたのに……」などと，ほかの子と比較したり，「5歳にもなって……」などと，見下したような言い方をしてプライドを傷つけてしまう。	
2	「N君は，あの時も乱暴したわよね」などと，子どもが忘れてしまっているような前のことを引き出して，しかってしまう。	
3	ついかっとなって大声をだしたり，理由も説明しないで感情的に怒ってまう。	
4	「どうせまたK君でしょう。K君はいつも悪いことばかりしているんだから……」と「悪い子」のレッテルをはってしまう。	
5	言わなくてもいいことまで，くどくど言ってしかっている。	
6	はじめに，きちんと子どもの言い分を聞かないでしかってしまう。	
7	しかったあとにすぐに，「ごめんなさい」と言わせようとしてしまう。	
8	「いけない」で終わらせないで，どうすればよいかを子どもにわかるように伝えるのを忘れている。	
9	しかった内容や自分の態度についてふり返ったり，反省したりしていない。 ※しかりっ放しにしないで，しかられた内容をきちんと受け止めているかどうか，しばらくその子の様子をていねいに見ていくことが必要。	

6　家庭との連携



Ⅶ　保育の実際

浦添市立宮城幼稚園　　ほし組
対象児　　5歳児　　33名

1 活 動 名　　「郵便やさんごっこ」

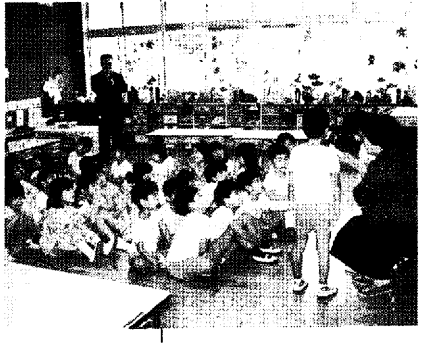
2 目　標　　郵便屋さんごっこを通して，友達の良いところや頑張っているところに気付いたり，自分が友達に認められていることを知ることにより喜びを感じ，自信を持って自己発揮しながら，遊びを楽しむ。

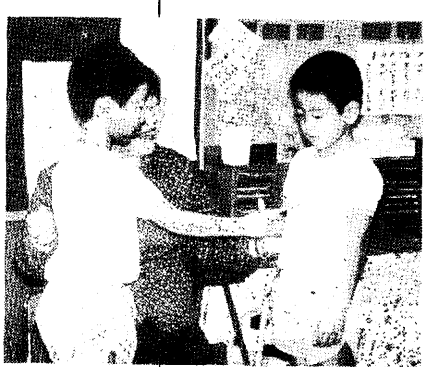
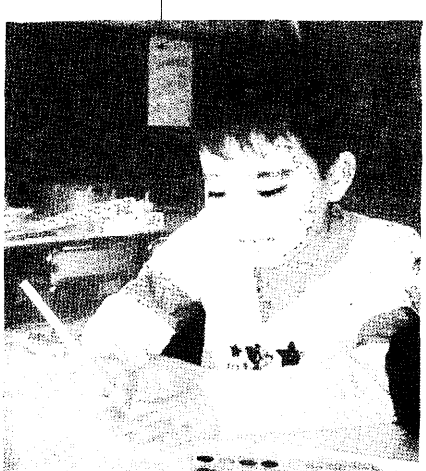
3 保育設定の理由

冬休みにお正月を経験し，年賀状やお年玉をもらったり，カルタ取りやトランプ，双六などのお正月遊びを通して文字や数量への関心が高まってくる。それと同じくゲームの勝ち負けのこだわりも強くなるので，ルールを正確にして遊ぼうとするようになる。

また，4月からは「小学1年生になる」との思いから字を書くことや読むことにも興味がでてきており，今年頑張ること【今年の目標】にも，「お勉強がんばる」「くもん頑張る」等，進学への意識と幼稚園卒園との思いが感じられる。これらは友達関係にも影響してくる。鉄棒やひもゴマなど出来ない事にも積極的に挑戦している友達の姿や，教えたり教えてもらったりする喜び，出来なかった事が出来るようになった喜びの共感と自信，認め合いの姿などを，郵便やさんごっこのはがきで表現したり，されたりすることで，友達と一緒に楽しく生活をしたり，遊びを進めていくことの楽しさや嬉しさ，面白さに気付いたり，友達の良さを認めていくような援助の工夫をすれば，道徳性の芽生えを培う活動の場が持てると考え本活動を設定した。

4　郵便やさんごっこの取り組み

月　日	ね　ら　い	幼児の活動	教　師　の　援　助
1月　7日	・3学期が始まることを知る。 ・新年になり，干支が変わることや今年は午年と知る。	・始業式に参加する。 ・目標を発表する。 ・十二支について話を聞く。	・カレンダーを見せて，あと3ヶ月で幼稚園を卒園する事や，4月からは1年生になることなどを確認し，見通しを持たせる。 ・今年の目標を考え発表させる。 ・十二支ついての昔話を素話でする。黒板に十二支を並べた絵表示を貼る。
1月　8日	・郵便屋さんごっこについて話し合う。 	・年賀状を書いた経験やもらった嬉しさなどについて話す。	・教師に送られてきた年賀状を園児の見える所に掲示する。 ・郵便屋さんごっこに必要なものを準備し，遊びが展開していけるように援助する。
1月　9日	・はがきの書き方や書くときの決まりについて話し合い知る。 	・どんなことは書いていけないのか自分の思っていることを発表する。 k子「自分が書かれていやなことは，書かない方がいい」 D男「馬鹿とか悪い言葉」 ・友達にはがきを書く。	・はがきの書き方（宛先，宛名，送り主）を，黒板に貼って知らせる。 ・はがきにも書いてはいけないことなどがあることに気付かせるように話をする。 ・字が書けない子もいるので手紙にも「絵手紙」「字手紙」があることを知らせ，絵のはがきでもいいことを伝える。 ・わからない字やうまく書けない字は教師も手伝うことを伝え，なぞって書けるように点々で書いたりして，自分で書く喜びを味わえるようにする。

1月10 日	・未就園児との交流があるので，やりたい子は自分で遊びを進める。	・自分ではがきを取り，送りたい友達に手紙を書く	・園児一人ひとりの状差しを作っておく。 ・書きたい園児が自分で書けるように，はがきなどを作り，準備しておく。 ・文字がわからないときに見る50音表を，子ども達がはがきを書くコーナーにも貼っておく。
1月 11 日	・自分の状差しに好きな絵を描き，手紙が来ることを楽しみに待つ。	・状差しに自分の好きな絵を描いて飾る。	・一人ひとりの名前を大きくわかるように書いた状差しを作り，もらったはがきを入れて置くところを作ろうと，提案する。
		・自分が書いて友達に送ったはがきを，みんなの前で読んであげて友達に送る。 もらった子は「ありがとう」と言って嬉しそうにもらう。	・ポストにたまったはがきを配る。 ・友達に送ったはがきの内容を聞いて友達の頑張っている姿や，親切にしてもらったお礼などを書いていることに，褒めたり，驚いたり，共感したりして書く喜びや、もらった喜びが実感でき，次への意欲につながるような，言葉で声かけをする。
		・もらった子は返事を書いたり，また別の友達に手紙を書く。 ・まだもらっていない子はまた，友だちにはがきを書いたり，返事を書いてくれそうな子に送ったりする。	・はがきがいっぱい来る子には，友達が良さや頑張っている事を認めていることに気付くような援助をして，自信を持たせる。 ・全然来ない子のそばにいき，はがきを一緒に書いたり，誰にどんなことを書いてあげたいのかを聞き，友だちや周りの人への関心を持つように援助していく。
1月15 日	・遊びが発展していくように自分たちの生活の場を整える。 ・遊びの中で文字や数字に興味を持ち自分たちの遊びや	・自分たちの出来る片づけなどを友達と一緒にやる。 ・はがきコーナーに郵便ごっこで使うものがあることを知り，自分たちで遊びを進めることを喜ぶ。	・自分で遊びが進められるようにコーナーを設置する。 ・文字がうまく書けないけれど文字を使ってはがきを書きたい子などに『ひらがなスタンプ』を準備する。 ・文字への関心が高まりつつあるので，

	生活の中で使う面白さや，便利さに気付く。	・カルタ取りを楽しむ。	クラス全員グループに分かれて，カルタ取り大会をする。
1月16日	未就園児へのプレゼント作り	・ダンボールを使ったピョンピョンがえる作りを，楽しむ。	・はがきをかきたい子は，コーナーで遊びを進める。
1月17日（本時）	検証保育		・はがきが送られ来てない子を事前に調べて，教師が書いて送る。
1月18日～1月31日	・郵便屋さんごっこを幼稚園全体で行う。	・他のクラスの友達からはがきをもらったり，出したり，配達したりして遊びを楽しむ。	・ごっこ遊びに必要な物や役割を子ども達と考えながら，遊びが発展していくような，援助をする。

5　本時の保育展開

(1)　ねらい

＊ ゆうびんやさんごっこがきっかけで，友達との関わりを楽しむ。
＊ はがきをもらう嬉しさや書く楽しさを味わう。
＊ 友達とルールを守りながら一緒にカルタ取り大会を楽しむ。

(2) 幼児の姿

・　3学期になってお正月あそびを喜んでやっている。
・ 年賀状を教師に送ってくれた子のはがきを，園児が見やすいところに展示したことから，はがきを書くことや読むことに興味がでてきて，「年賀状，昨日，私も送ったから貼ってね。」という園児が数名いた。
・ 「 幼稚園でも郵便やさんごっこしたいな 」と印刷したはがきを見せると，すぐに「やりたい。私もやりたい。」と返事が返ってきた。
・ 友達からお手紙をもらった子は喜んで返事を書いていた。
・ まだ，字が書けない子やわからない字などは，教師に書いてもらったり，教えてもらったり，友達が書いてあげたり，教えたりしている姿が見られる。
・ 友達の頑張っているところや得意なことなど，いろんな事をよく見たり，知っていたりする。

(3) 保育の展開

時　間	場の構成	幼 児 の 活 動	教 師 の 援 助
9：15		○　集まり	・トイレに行ったり，使っていた遊

T

□□□□□□

・集まりの時間だということを，クラスの友達と言葉をかけ合いながら行なう。

・手遊びをする。
『まあるい いのち』
＊前でやりたい子（数名）がリードして行う。

具を片づけて集まるように声かけをする。

・ 次の活動が楽しく始められるように手遊びをして，雰囲気を作る

○郵便屋さんごっこ

・友達に送ったはがきを，書いた人が読んであげて，送られた人に渡す。

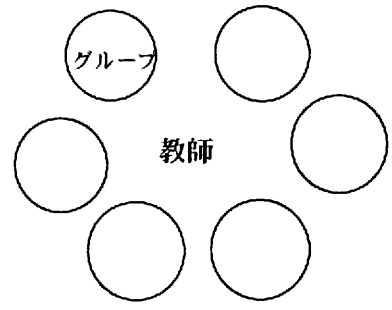
・ポストに入っているはがきを配る。

・紹介してくれる子のはがきの内容を受け止めたり，発表意欲を促すような言葉かけをしていく。

・友達が頑張っていることや，良さなどに気付いていることを温かく受け止め，共感する。

・返事を書いたり，友達に，はがきを書いたり，スタンプで押したりして，ごっこ遊びを楽しむ。

・友達からはがきをもらった子の嬉しさや喜びを共感し，その子の思いやりの心や行動を認めたり，褒めたりする。
・はがきがまだ，来ていない子への配慮をする。
・字が書けない子や，苦手意識のある子には個々に援助していく。

9：45		・これからの郵便屋さんごっこについて話し合う。	・これから遊びを発展させていくための話しをする。 ・他のクラスの友達に送たり，郵便屋さんになり，ごっこを進める。その為に必要なものを作る。
10：00		○『カルタ取り大会』をする。	・遊びのルールを確認しながら，楽しめるようにしていく。  ・グループで一番多くとれた子にチャンピオンメダルを授与する。
10：15		○　片づけをする。	・グループみんなで片づけできるように声をかける。

【評価の観点】

・本時の活動のねらいは適切であったか。
・友達の良さなどに気付いていたか。
・教師の援助は適切であったか。

園児のはがきの内容

*私はMさんが，大きい鉄棒で前まわりをがんばっていたのを見つけました。
*おジャ魔女ドレミごっこして遊ぼうね。
*トイレのスリッパを並べてくれていました。
*kさんがはじめてこまを回せました。おめでとう。
*みかんをむいてくれてありがとう。
*Aさん，前まわり頑張って下さい。
*Mさん，今日Bくんが駒まわせたよ。
*そうじを頑張ってくれてありがとう。
*今日帰ったら，いしょに遊ぼうな。
*Eくんは，コマを回すのがじょうず。
*ぼくは，勉強頑張ります。Eくんはなにを頑張りますか。

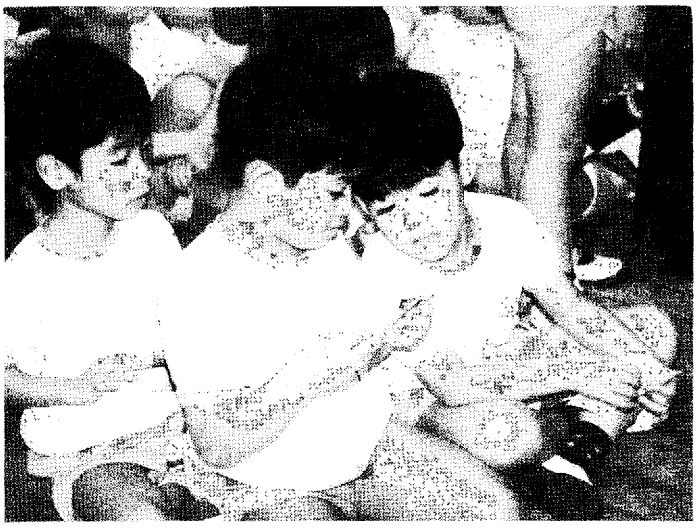
せんせいへ
ダイエットがんばってね

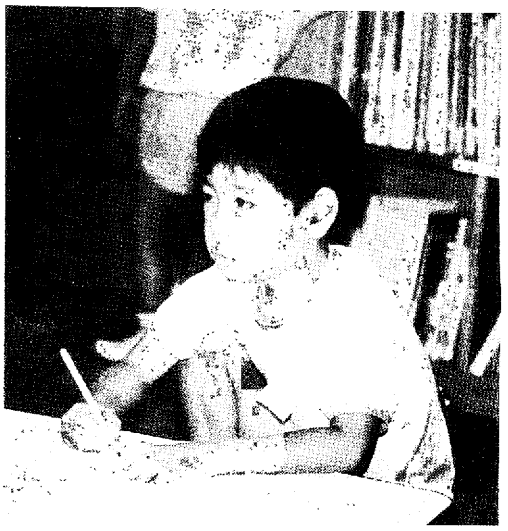
せんせいは
何のテレビが好きですか

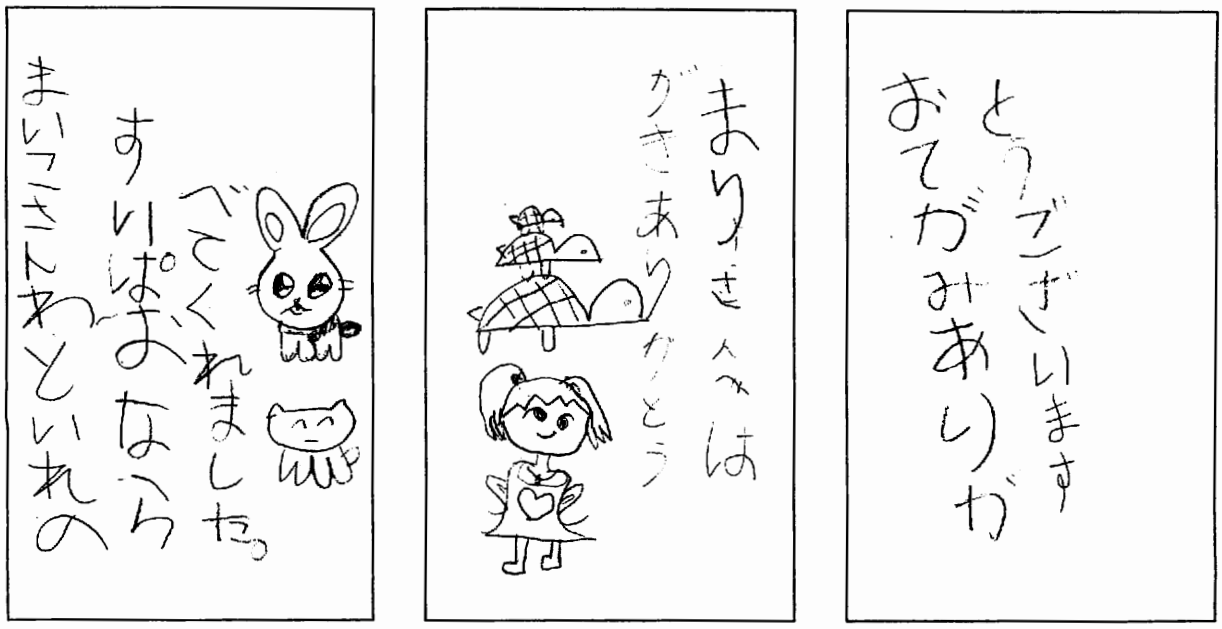
Ⅷ　研究の事例

事 例　1

教師が園生活の中において，今まで行ってきた活動であっても，道徳性の芽生えを培うことを意識して活動のねらいや視点を変えることにより，遊びの場面の捉えや援助の仕方も変わった。今までは郵便ごっこも、お正月遊びのひとつの活動として，文字に興味や関心を持つようにとの面からの援助に視点をおき，はがきの内容より，鉛筆の持ち方や筆順などの援助や指導をしていた。この研究を通して道徳性の芽生えを形にしながら，幼児の気持ちの受け止めや内面の理解，良さを認め合う活動として初めて郵便ごっこに取り組んだ。子どもの成長した姿や，お互いにその子の良さや得意なことを認め合っていたり，憧れをもって見ていることがよくわかった。また，認められた子も，ますます自信をもって自己発揮した遊びや活動を展開している姿が見られるようになった。







事　例 2

幼児が園生活を通して，友だちとのトラブルや葛藤体験をしている場面において，遊びを楽しく進めていくためには，ルールやきまりがあり，それらを守ることにより，友だちとスムーズに遊びを展開していけることに気付き，ルールやきまりの大切さがわかり，守ろうとする態度を育むことができたと，下記の事例を通して考える。

D男さんも一緒に食べれる，お土産だよ

・入園当初からアレルギー体質で，湿疹やかゆみがひどく、暑くなるとかゆみが増し，それを我慢するために，すぐイライラしてまわりにいる子に乱暴なことをしてしまうD男。K男とは席や並ぶ時に隣になり，「先生，D男が意地悪する～」との，訴えが多くあり，その都度，注意するなどし，D男にもK男の気持ちが分かるように，本人に置き換え「こんな事されたらどうかな?」と考えさせ，「いやだ。されたくない。」とD男が感じたら，「じゃ，K男さんはどうだろう?D男さんはどうする?」と，また考えてもらい「謝りたい」と答えを出してきたときに，K男にD男の気持ちを伝え，話しを聞いてあげるようにお願いする。しばらくすると，「先生，俺達，友だちになったんだよ。なあ－D男」と言いながら，肩を組んで歩み寄って来た。

おやつの時間になり，教師がD男に「今日のおやつのお菓子は卵が入っているから，D男さんはこのお菓子（病院で買ってきたアレルギー用）にしょうね。」と，話しかけているとK男が「D男は卵が入っている物はだめなの?」と聞いてくる。「そうなの。いまね，D男さんは，本当はみんなと同じおやつを食べたいの，だけどアレルギーの病気を治すために，お医者さんとお母さんにいまは我慢してね，と言われてちゃんと，約束を守っているのよ。偉いよね。」と，話すと「そうか，がんばれよ。」と，ちょっと，大人びた言い方をしてD男に 語りかけていた。

K男が幼稚園をお休みして，広島のおばあちゃんの所に遊びに行って帰って来たある日の朝，登園してくるなり，「先生，お土産持ってきたよ。これ，卵が入ってないので，D男も一緒に食べれるからね。僕，お母さんにうしろにかいてあるのをみてもらって，卵が入っていないのさがしてもらったんだ

よ。」と言って渡してくれました。 私は感動して「ありがとうね。K男さん優しいね。」と言うのが，精一杯だった。（教師がおやつの時間に，お菓子の材料の欄を読んでいて，判断していたのを見て理解していたようです。）

その日のおやつの時間に，K男がD男の事を考えてお土産を買って来てくれたことをクラスの子ども達に伝えるとM男が「K男，D男の食べれるの買って来てくれてありがとうなー。」と言っていた。それからは，おやつの時間になるとクラスの誰かが「今日のはD男も一緒に食べれるの?」と聞いてくるようになり，お当番の子も「今日はD男さんにも配っていいですか?」と配慮できるようになってきた。この事を，お迎えに来ていたD男さんのお母さんに伝えると，涙を流しながら「今は家でも除去食治療に積極的になり，早くアレルギーを治したいと言っています。」と　喜ばれていた。

ルールを守らないとだめだよ～

クラスの子ども達が12月のお楽しみ会の時にサンタさんからプレゼントされた『お話カルタ』を使って，グループに分かれて『カルタ大会』した。読み手は教師。絵札はどのグループも同じなので，一斉にカルタ取りが出来る。始める前に教師の読み札の声が聞こえるように静かにしないと，今，何を読み，どれを取るのかわからなくなって困る事や，カルタを取ったときに友だちと手が重なっているときは，下の人が早いので下に手のある人が勝ち、また同じ所に何人かが手を置いている時はジャンケンで勝った人のものという遊びのルールを，みんなで考え共通理解して始めた。 それぞれのグループに差はあるが，友だちがルールを守らないでやろうとすると，「先生，ちょっと待って」「今，A子とB男がジャンケンするから」とか，「S男ルール守らないとだめだよ」「今のはC子が早っかたよ。はい，これはC子のもの」等と，各グループでルールを守りながら遊びを進めていく姿が見られた。

事　例 3・4・5

『先生，お母さんね，虫怖いって』（ダンゴ虫やセミとの触れ合いを通して）

5月に月刊絵本に載っていた「ダンゴ虫」が幼稚園にある木の枯れ葉の下にいっぱいいることを見つけたF男。早速友だちを誘って，ダンゴ虫を取りに行く。それを見ていた子が，また取りに行く。こうして，ほとんどの子が牛乳パック等に入れ，家に持ち帰った。翌日，「昨日持って帰ったダンゴ虫，どうしたかな。」と朝の会で話しを聞いた。「あのね，お母さんが気持ち悪いから外に捨てておいでと，言ったから外の木のあるところに捨ててきた。」「どうして，木の所においてきたの」「だってダンゴ虫さんのお家は木の下の所だから」「○○さん優しいね。ダンゴ虫さんもきっと家に帰りたかったんじゃないかなぁ。」「はーい。お母さんね，虫がこわいって。だから，これからは持ってきたらダメって。どうしてかなぁーかわいいのにね。でも，お母さんをこわがらせたらかわいそうだから幼稚園でダンゴ虫さんと遊ぶことにしたの。」「そう，それはいい考えね。きっとおかあさんも嬉しいでしょうね。」等々，いろいろな会話が出来た。

7月セミ取りが盛んになりかけてきた頃『セミの一生』という本や紙芝居を通して，「セミが大人になるまでは，みんなが生まれてから1年生になるまでの間ずっと土の中でいることや，やっと大人になって飛べるようになっても，一週間（月曜～日曜の7日間）ぐらいしか生きられないことを，知らせる。セミ取りの経験は，いままで虫を怖がっていた子も楽しむようになり夢中になって，捕り始め，自

分が捕虫したものをお母さん等に見せたくて，持って帰る子が多かった。その後はどうするのかな?と，教師が思っていた降園時「先生，バイバイ。せみさ，夕方になったら公園の木の所に，逃がすからね～」と，大きな声で言いながら帰っていく子ども姿を見て，5歳児なりにちゃんと考えてくれているのだと，嬉しく思った。

地域の老人会のおじいちゃんやおばあちゃんとのふれ合いを通して

幼稚園の近くにある自治会館に訪れて，自治会の高齢者との交流会を持った時，「先生，あのおばあちゃん，もうすぐ100歳だって。」と園児の祖父母より高齢者なので驚いていた。また，，一緒に踊ったり，歌ったりする中で親しみもわき，「おばあちゃん達すごいね。」「上手だね。」等と言い，お別れの挨拶で握手をしながら「いつまでも長生きしてね。」とか「元気でいてね。」「幼稚園にも遊びに来てね。」など，自分の思った事を言葉に表現していた。みんな，優しい気持ちになっていた。

小さい子はすぐ泣くから，優しくしてあげないとダメなんだよ

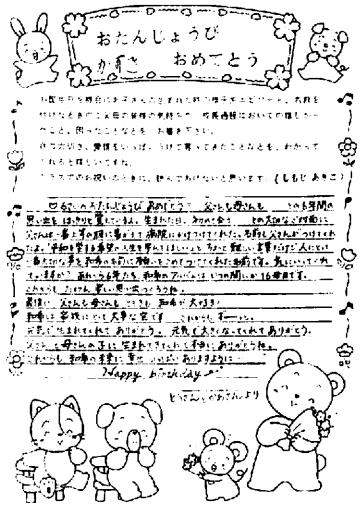
未就園児との交流会をする前日に「明日は，みんなより小さな子が幼稚園に遊びに来るけど，どんな事に気をつけてあげたらいいかしら ?」と問いかけると何人かが手を挙げ「優しくする。」「自転車やキックボードは乗らない。」「小さい子は何でもすぐ泣くから優しくする。」等，自分たちの経験から考えられることを発表していた。当日の園児達は，トランポリンなど遊具も小さな子は並んでいなくても入れてあげ，くつなど履き物の世話もしている姿が見られた。また，子ウサギも園児が抱きたくても，小さい子に譲りかしてあげている姿もあり，とてもほほえましい光景が見られ，人に優しくすることの喜びを感じている様子が見られた。

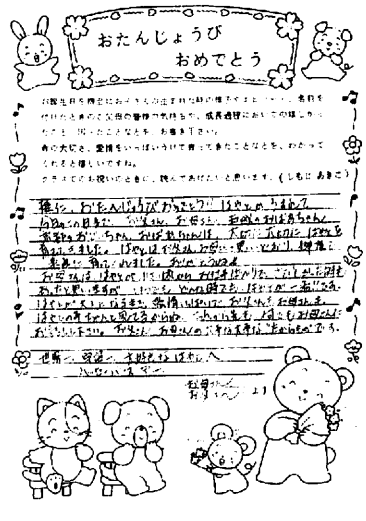
お誕生会のおめでとうメッセージを通して

幼稚園児になった頃に，弟や妹が生まれたりして，赤ちゃんにやきもちを感じる頃なので，このメッセージを書いていただき、自分の赤ちゃんの頃のことを聞く機会を作る事を考えた。これをクラスでのお祝　いの時に読んであげていた。その時の誕生児の顔は照れて恥ずかしそうにしているが，その表情はどの　子もとても嬉しそうにしている。また，クラスの子も興味深く聞いていて，内容もよく理解している。

その後，クラス便りに誕生児の紹介と一緒に父母からのメッセージも載せ，紹介している。

どのメッセージも愛情あふれる，素晴らしい内容で，教師も毎月感動している。





アンケートの結果より　（平成14年2月14日～2月20日）

(1) 園生活を振り返って，道徳性の意識は高まったと感じている保護者が83パーセントいた。

どのようなことで感じるのか。（アンケートより抜粋）

*以前はお友達とあそぶ約束をしても，すっかり忘れてしまっていた事が多かったが，最近では誰とどこで，いつ（ご飯を食べた後など）約束したのかを，しっかりと覚えていて伝えにくるようになった。家庭の方では，両親に対し，身体をいたわってくれたり，姉妹への思いやりの言葉かけや態度が見られる。
*持ち物には名前を書くなど，先生に言われたことをちゃんと私に伝えるようになりました。私との約束，例えば「○○時までには帰っておいで」「遊びにいく場所を必ず伝えること」等も守れるようになってきました。おばあちゃんのお店（本屋）では，小学生がお菓子の袋やゴミをどこにでも捨てるのを見て，注意までは出来ませんが，そのゴミをゴミ箱へ捨ててくれます。
*交通マナーや金銭，物品に感覚が育ったように思われる。
*幼稚園生になってからは，外で遊ぶことが増えてきて，道路を渡る時，最初は不安そうだったけれど，左右の確認をして手をあげ安心して渡れるようになりました。
*お友達もたくさんできて自分たちでルールをきめることで，仲良く遊べるようになってきました。

(2) お友達について，良さを認めたり，憧れをもっているような話を聞いたことがありますか。
聞いたことがある。 92パーセント

どんなこと（アンケートより抜粋）

*帰ってきて，よく幼稚園でのことを話てくれますが，その中でも「自分が困っているときに手伝てもらった」とか「友だちが注意してくれた」という話しがあった。
*「 ○○君は跳び箱○段跳べるんだよ。スゴイよー。○○もとびたいなー 」とか。
*お友達が，自分の知らないことをよく知っていたり，出来ない遊びを上手にやっているのをみて「お友達はすごいんだよ」と話してくれます。どうしたら自分もじょうずになれるかなと言いながら、独楽回しや折り紙でいろいろなものを折ったり，家で一生懸命頑張っています。

Ⅸ　研究の成果と課題

1　成　果

○　幼児の活動や遊びの場面で，助け合い，優しさ，思いやり，励まし合い，認め合う姿などが多く見られた。教師は幼児一人ひとりの気持ちを受け止め，内面を理解しょうとする姿勢・押し付けでなく気付きを待つ姿勢，トラブルが起きたとき幼児同士で解決をさせる方向にとの姿勢ができるようになり，子どもの道徳性の芽生えを培うためには，人的環境である教師が変われば子どもも変わるということを

実感として捉えることが出来た。

○　幼稚園における身近な人々とかかわって遊べるような，環境作りや経験をさせることにより，子どもたちも多くの人と積極的に関わって遊ぶ姿が、多く見られるようになった。また、共に過ごす喜びを味わい，相手の気持ちや考えに気付いて行動するようになり，人との関わりに広がりが見られた。
このような環境作りは道徳性の芽生えを培うために良いとわかった。

○　家庭との連携は，幼稚園側からの一方的な通信ではなく，保護者からの通信をクラス便りなどで伝えたり、ボランティア活動に参加してもらったことが，園と保護者との共通の認識が生まれ家庭での協力が得られ 教育効果が高まったと思われる。

2　課題

○　園内研究などで道徳性の芽生えについての共通理解と幼児の発達の特性を踏まえた，教育課程の見直しをしていきたい。

○　幼児理解を深めるためのティーム保育の充実と保育を終えてのミーティングを大切にして，園全体で指導観を共有していきたい。

おわりに

道徳性の芽生えを培うための援助の工夫を、身近な人との関わりの中、遊びの場面を通して実践研究してきました。「道徳性の芽生えを培うとは」ここで何度も悩み小学校の道徳の指導書まで調べたりしてきましたが、幼稚園とは違い教科で道徳を行うのと、園生活の保育の中での道徳教育とでは、具体的な価値項目などをめあてに授業を展開していく過程から違い、とても勉強になりました。自分の保育を振り返る良い機会でもあり、道徳性の芽生えを培っていくためには、まず教師自身が幼児を良く理解し、正しい判断ができるような気付きを大切に、感性を豊かにしていかなければとを感じました。

幼児は、身近な人とのかかわりから自分との違いに気付き、相手の気持ちも考えてかかわったり、自分の思いを出したりできるようになりました。また、思いやりのある言葉が多く聞こえるようになり、自分がされたり、言われるとイヤなことは人にもしてはいけないことが良くわかったようです。今後は、作成した年間指導計画をもとに、心豊かな子の育成をめざしていきたいと思います。

研究期間中御指導下さいました、浦添市教育委員会の知念敏枝指導主事、当研究所の大城所長、新川係長、山里主事、職員の皆様に深く感謝申し上げます。また、教育研究の機会を与え支援して下さいました浦添市立宮城幼稚園の島袋盛光園長をはじめとする諸先生方、園児と保護者の皆様には心から感謝申し上げます。

主な引用文献・参考文献

「幼稚園教育要領解説」　文部省　フレーベル館
「幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集」　文部科学省　ひかりのくに株式会社
「幼稚園教育の基本」　小田 豊 著　小学館
「教師のさまざまな役割」　秋田喜代美　編著　チャイルド本社
「保育用語辞典」　森上史郎・柏女霊峰 編　ミネルヴァ書房
「小学校学習指導要領解説 道徳編」　文部省
「幼児と保育10月号」　黒川憲治 編集（平成9年）　小学館
「幼児と保育11月号」　黒川憲治 編集（平成11年）　小学館